

令和4年度第19回市政懇談会 会議録（要旨）

<p>【日 時】令和4年11月8日（火） 19時00分 ～ 20時45分</p>
<p>【出席者】○篠崎市長 ○<参加者>14名 （地区子連）10名 東岐波地区子ども会育成連絡協議会 副会長 森 智子 恩田地区子ども会育成連絡協議会 会長 五十崎 良 見初地区子ども会育成連絡協議会 会長 藤田 理恵 神原地区子ども会育成連絡協議会 会長 高松 祐次郎 上宇部地区子ども会育成連絡協議会 会長 尾木 哲 小羽山地区子ども会育成連絡協議会 事務局長 小野 早百合 藤山地区子ども会育成連絡協議会 会長 福元 寛志 黒石地区子ども会育成連絡協議会 会長 小野 莊二 西宇部地区子ども会育成連絡協議会 会長 城美 暁 小野地区子ども会育成連絡協議会 会長 古谷 慎也 （市子連）4名 宇部市子ども会育成連絡協議会 会長 山根 輝久 副会長 原田 正之 副会長 武田 尚文 事務局長 杉永 美佐子 <オブザーバー>26名 ※PTAや地区コミュニティ推進協議会等 ○教育委員会 ○事務局（広報広聴課、社会教育課）</p>
<p>【概 要】1 開会 2 参加者自己紹介 3 参加者と市長との意見交換（オブザーバーとも意見交換） 4 閉会</p>
<p>【意見交換・懇談】</p>
<p>【市長】 ・子どもたちにとって様々な経験ができ、重要な組織である子ども会の加入率が、5月1日現在で1,219人、15.6%となっており、持続可能が難しくなっている。 ・今回の市政懇談会では、今ある問題点を洗い出し、整理をし、今後の子ども会のありたい姿を考える会としたい。</p>

今後の子ども会について（現在の子ども会の課題、問題点、取組）

【東岐波】

- ・加入率の向上が課題。役員の仕事の負担を軽減するため、地区子連の行事は地域の協力団体にお願ひし、役員には単位子ども会の行事を頑張ってもらえるように2年前に見直したが、加入率の向上は難しい状況である。
- ・加入者でも、スポ少や習い事が行事と重なり実際の参加者は少ない。

【恩田】

- ・恩田小学校の児童は711人いるが、加入率は1割の70人程度。単位子ども会も元々9子ども会あったが5子ども会となり、現在は、そのうち3子ども会が消滅の危機。
- ・会長の任期も単年であったため、引き継ぐことで精一杯で、加入率を上げていくことや、子ども会の魅力を発信することができていなかった。
- ・現在、体制の整備を整えている状況である。子どもだけでなく大人も一緒に楽しめる形にしないといけないと考えている。
- ・保護者の負担を軽減するため、役員の見直しや、取りまとめ等のアプリの導入等、市子連から市に予算措置の要望をしていただき、地区ごとでできる体制を整え、負担軽減できればよいのではないかと考える。

【見初】

- ・子どもが少なく、自治会区ごとではなく、小学校単位の子どもの活動となっている。
- ・子ども会とPTAが融合した組織「育友会」を小学校に作り、入学時に全員加入しているが、市子連の行事に参加がない状況である。
- ・加入率低下の原因としては、保護者への負担感で、家庭数が少なく、役員が何度も回ってくるためだと考えている。
- ・子ども会の会長も単年であるため、事業内容も分からないままで活動も進まない。来年度から地域に相談し、地域から市子連の役員を選出し、子ども会活動の協力をしてもらうことで、保護者負担の軽減をすることとした。

【神原】

- ・子ども会の加入率について課題として考えておらず、子ども会に加入していなくても、子どもたちがその地区や宇部市のことが好きであれば良いと考えている。
- ・「できる限り」がキーワードだと思い、子ども会に加入しなくても、魅力とを感じる子ども会の行事があれば、子ども会に加入していない子どもも参加できる体制を整えていければと思っている。

【上宇部】

- ・新1年生への加入については、仮入学の時に学校で紹介し、チラシを配付していたが、コロナ禍で未実施であったため、加入率が一桁、加入者は20人程度となっている。

- ・自治会によっては、子ども会に対して協力的でないところもある。
- ・単位子ども会がなくなり、誰でも加入できる上宇部地区子ども会ができ、子ども会活動について知ってもらうために児童全員にチラシを配付しているが、加入率向上にはつながっていない。
- ・役員への負担感についても、役員の人数を減らして、協力員制度の導入についても検討している。

【小羽山】

- ・これまでの小羽山地区育成連絡協議会が廃止され、令和4年度から小羽山地区子ども会となり、単位子ども会がない状況で活動している。
- ・会長、事務局員以外の役員は有志で、11人で活動し、今年度はドッジビー大会、キャンプ（宿泊体験）を実施した。少ない役員で活動できているのは、ジュニアリーダー、18才から30才までのシニアリーダーの協力で、行事を率先して行っていることによるもの。
- ・行事ごとに学校から案内していただいている。
- ・今後はジュニアリーダー、シニアリーダーの育成や、役員がいつまで引き受けてもらえるのかが課題となってくる。

【藤山】

- ・単位子ども会は30年前には15子ども会あったが、13年前は6子ども会に減り、現在は3子ども会となっている。加入者は30人だったが、学校で募集をかけたところ、80人まで加入者が増えた。（加入率15%程度）
- ・加入率低下の原因としては、児童数の減少、スポ少・クラブチーム・習い事などによる子どもたちの選択肢の増加、子ども会役員・自治会役員・PTA役員などの重複による負担感が考えられる。
- ・今年度から組織を見直し、PTA活動の中（校外活動部）に子ども会活動を取り入れることで、保護者の負担の軽減に取り組んでいる。
- ・来年度は、藤子連は一旦解散し、募集方法もすべて学校募集に切り替える。配付物については、学校からお願いできないかと考えている。
- ・藤山中学校でヤング自治会が組織化され、高齢化で清掃活動ができない地域に中学生が出向いて活動している。ヤング自治会に子ども会を入れて、ジュニアリーダーの育成に取り組んでいく。

【黒石】

- ・やさしさと思いやりを持った子どもに育ててほしいと考えている。
- ・やさしさと思いやりを諭す先生について小学校に相談したところ、道徳の話はするが諭すまではできないと言われたので、教育委員会にも良い先生がいれば紹介してほしい。

【西宇部】

- ・西宇部地区の子ども会の加入率は、平成16年度の90%程度から17%まで落ちていたが、改革を進め、令和4年度は60%へ上昇した。
- ・加入率が低下し続け、平成29年度に西子連の解散の話が出たが、地域力の低下を危惧して、会長を引き受け5年になる。
- ・加入率低下の原因としては、子ども会に魅力がなくなったこと、核家族化・共稼ぎなどにより余裕がなくなったこと、子どもたちの多忙化などが考えられる。
- ・単位子ども会の有無や、児童数の多少、加入率の高低など、それぞれの地区で状況が大きく異なるため、各地区の実情に即した取組が必要であると考えます。
- ・業務削減を行い余裕を持たせ、かつ充実策を行ってきたが、大切なのは、子ども会の存在意義（メリット）は、「遊び」を中心とした「子どもたちだけの」組織であり、社会性を育む、生活における知恵を育むこと、ストレス発散などでも有効であることで理解し、そのことをしっかり伝えていくことである。

【小野】

- ・加入率はほぼ100%となっている。児童数は19人（1名特認校就学制度利用者）、14世帯であり、単位子ども会としては多いところで5人である。
- ・小野子連として、キャンプやドッジビーなど行い、廃品回収についても地域の協力により行っている。
- ・兄弟がいる場合は、保険だけ加入していただいて、幼稚園・保育園の頃から子ども会活動と一緒に参加していただいている。
- ・子ども会のチラシについては、入学時に、学校にお願いして配付をしていただいている。
- ・親の負担を減らすために、統合できる役はなるべく統合して、役は減らすようにしている。
- ・市子連の行事についても、人数が少ないため参加したくても参加できないのが現状であるため、1年生、2年生が出る行事も柔軟にみんなで楽しめるものとなればよいと思う。

【市子連事務局長】

- ・市子連が提示した加入数については、安全共済会加入児童数によるもの。提示は5月1日時点のものであるが、上宇部や藤山が単位子ども会から地区子ども会になったため、11月時点では加入者は増加している。
- ・加入率低下の原因としては、役員が負担であることや、子どもが忙しいなどが考えられる。また、コロナ禍で活動できなかった期間もあり、このままやらなくてもよいのではないかという声も地域でお聞きしている。

【市子連武田副会長】

- ・市子連の組織力・結束力が低下している。理由としては、地域の子ども会の担い手が少なくなっているが、やることは変わらないため、地域の疲弊化が考えられる。
- ・子ども会の活動は前年踏襲型となっているため、一度子ども会活動の棚卸を行ってみてはどうか。
- ・子ども会のデメリットについては勝手に拡がるが、メリットについては市子連・地区子連が努力しないと伝わらないので、メリットの情報発信を市子連・地区子連が力を入れれば状況が変わるのではないかと思う。

【市子連原田副会長】

- ・地域コミュニティや社会福祉協議会等から助成金をもらっているが、子ども会の役員が地域行事についての役を負担させられること等もあり、それらを負担に感じているのではないか。
- ・時代の変化により、集まらずとも一人で遊べるゲームがあるが、子ども会では集団で色々な体験をすることができるものである。
- ・子どもにけがをさせてはいけないと考えている親もいるが、子どもに色々な体験をさせるべきで、子どものときの経験は大切に、子ども会の活動も必要なものであると考えている。

【市子連会長】

- ・子ども会育成連絡協議会は、本来子どもたちを健全育成するための組織だが、5年前に行ったアンケートでは、行事をするための組織になっているという意見があった。
- ・子ども会ができてから、子どもたちのために目標を作り、その目標に向けて子どもたちの育成をしてきた。
- ・子どもたちも習い事などにより状況が変化する中で、地区子連及び市子連の意識の迷いがあり、どのように運営すれば続けられるか考えている。
- ・各地区で問題点が異なるが、役員の負担感については、市子連も改革を進めており、負担を軽減し、子どもと育成者が同時に遊んで楽しいと思える会を目指していきたい。

【市長】

- ・今回のキーワードは「負担を減らす」「情報発信」が多く出ている。その他には「自治会との関係」、「子ども会のメリットとは」という課題もあった。
- ・自治会の持続可能性も厳しく、その最先端が子ども会であり、自治会のコミュニティ活動等の縮図となる。子ども会だけの問題ではない。そのため、子ども会・PTA組織を守らないといけない。
- ・課題には、自責と他責があるが、まずは自責、自分たちが変えられる環境にあるものを整理する必要がある。棚卸をしたり、子ども会の意義を見出して、経験することの

メリットを保護者に伝えていく必要がある。

- ・保護者の負担を軽減するため、西宇部で作られたツールを参考にし、全地域でのツールの導入が必要であれば、市も協力したい。

意見交換

【黒石】

- ・藤山のヤング自治会はすばらしい。自治会活動が活発になれば子ども会活動も活発になる。

【藤山】

- ・ヤング自治会は、元々藤山中学校の地域元気応援隊がはじまりで、昨年度から活動が始まった。会にもいろいろな役を与えて、中学生にも主体的に活動してもらっている。鵜の島小学校区と藤山小学校区あわせて藤山中学校区として、地域コミュニティを動かしている。
- ・鵜の島小学校区には子ども会がないため、来年度以降、地域にとらわれずに参加できる子ども会活動を作っていきたい。

【西宇部】

- ・子どもたちに子ども会を返すという視点で、あくまで子ども会は子どもだけの組織のため、大人の介入は最小限としたら大人も楽になるのではないか。

【厚南（オブザーバー）】

- ・学校では自治会単位で子どもを集めることはないのか。

【教育委員会】

- ・学校のことなので詳細は分からないので確認するが、自治会単位で集まって集団下校を行うなどの可能性が考えられる。

【市長】

- ・子ども会のメリットや負担（タスク）を洗い出し、各地区で共有する、ノウハウを共有しあう会を作ってはどうか。

【市子連会長】

- ・12月の定例会で集約する形がよいのではないかと思います。

【市長】

- ・しっかり共有してもらい、今後の子ども会の方向性を1月ぐらいまでに示してもらえれば、来年度から市も一緒に動くことができる。

【恩田】

- ・11月、12月中に体制を整えないといけない。西宇部のノウハウを教えてください、棚卸をしようとしている。
- ・声としてあるのは、ドッジビーはやってもらいたいが、審判はしたくないなどで、外部に審判を依頼するなどの協議を行えばと思う。

【市長】

- ・子ども会の行事はアウトソーシングできないのか。保護者が関わる必要があるのか。

【西宇部】

- ・アウトソーシングできる。保護者以外で指導部を作って指導員にお願いしているところもある。

【市子連会長】

- ・市子連の大会もスポーツ推進員に委託していた。
- ・育成者は保護者ではなく、自治会や地区の人であれば誰でも育成者になれる。ドッチビー大会なども、地区の方が多数審判員になられている現状である。

【小野】

- ・スポーツ推進員はなんでもできるわけではない。(特にニュースポーツなど)外部の専門的な団体などにお願いすることはよいと思う。

【市長】

- ・地域に対して子ども会からお願いしたいことがあれば教えてほしい。

【西宇部】

- ・派遣員制度があり、そのため兼任をしないといけない。

【小羽山】

- ・今は人数が少ないのでないが、人権・ふれあい・社協などの兼任はしていた。

【藤山】

- ・兼任はあったが、子ども会もPTAも出所は保護者になるので、学校で募集してもらっていた。なお、人権と学校運営協議会については、登録制になっており、兼任が難しいため、小学校の執行部の役員が担当していた。

【市長】

- ・子ども会は危機的状況のため、コミュニティに兼任の負担軽減のお願いを検討してみるが、子ども会の現況を調査していただき、市に提言してほしい。

【黒石】

- ・「ゆめプラン黒石」として、まちづくりを推進していくために、また、子どもたちをどのように育てるかという活動を行っている。

【市長】

- ・課題を明確化することが本日のミッションであるため、先ほど出た負担軽減や情報発信等の課題を元に、子ども会が子ども達の組織であることを原点とし、是非この機会に市子連や地区子連の皆様を検討をすすめてほしい。
- ・必要なことは市としてもバックアップしていきたいと考えているので、ご提言をまとめてきていただきたい。